

令和4年度（第28期）にいがた市民大学
「^さど島の金山～世界に誇る文化遺産の価値を学ぶ～」公開講座
「世界文化遺産としての佐渡島の金山の価値」 実施概要

- 【会 場】 新潟市民プラザ（新潟市中央区西堀通 6-866 NEXT21 6階）
- 【日 時】 令和4年8月20日（土） 午後1時～3時
- 【講 師】 筑波大学名誉教授 国際機関 I C C R O M 事務局長特別アドバイザー
稲葉 信子
- 【参加者】 計73名 （内訳）・講座受講者 52名
・一般参加者 21名

【内 容】

「世界文化遺産としての佐渡島の金山の価値」というタイトルのもと、世界文化遺産の登録を目指す「佐渡島の金山」の価値についてお話しいただきました。

「世界遺産とは何か」から始まる講座は、世界遺産の意義やその価値についての問いかけから始まります。世界遺産とは、地球という一つの自然とそこに住む生物と人が作り出す協働作品であり、登録されている1,154か所それぞれに物語があり、地球の教科書となっています。それは、普遍的であることと同時に多様であることを求められています。

世界遺産には審査するための10の評価基準がありますが、それは救うためにあるものであり、排除するためのものではないことが重要です。佐渡島の金山の登録については、世界の人にとって佐渡の価値が何なのかを考えることが大切であると指摘しています。佐渡島の金山とは、人類史における鉱山産業の歴史です。全生産を島内だけで賄うという地理的特徴を生かし、手工業の技術を追求して質、量ともに世界最高、最大級の金を生み出したことで、人類の手工業の歴史における最高到達点を示しています。

さらには、その保全状態においても世界最高モデルであることが求められ、日本だからこそできることがあると期待されています。それには、地元の思い込みや旅行者の勝手な期待に振り回されることなく、普遍的価値を持ち続けることが重要であるとお話しされました。

受講者アンケートでは、「世界遺産への登録、認定についてやイコモスのことを知ることができた」、「世界遺産委員会のことや普遍的価値の内容の理解ができた」などの感想をいただきました。

